



NPO 金沢杜の里 NEWS

2022.7 No.41



完工記念モニュメント(もりの里2丁目)

せせらぎ水路のホタル



金沢市立杜の里小学校

校長 寺 西 陽 一

毎朝、卯辰トンネルを抜けると眼前に広がる景色で、気持ち仕事モードに切り替わります。鈴見高架橋を渡りきると、きれいに整備された四車線道路と街路樹。この地域は大学門前町として開発され、今もなお発展する新しい町であると感じます。もりの里のアーチ状の歩道橋は、私のお気に入りの一つです。どことなく都会的な雰囲気を感じ出しているように感じます。

いちばんのお気に入りの場所はせせらぎ通りです。赴任間もない時期に地域を散策したときに見つけた場所です。傾斜地を活用した「せせらぎ水路」。そこにホタルが生息する水路として管理されていることが記されている看板が目にとまりました。「ホタルの会」と「NPO金沢杜の里」という団体の存在もその時初めて知りました。私は、このホタルの季節が楽しみです。地域に住む人たちがホタルが飛び交う幻想的な光景を楽しんでいることでしょう。時間を忘れてホタルを捕まえ遊んでいた小学校の頃の自分の思い出と重ね合わせてしまいました。

この町は約三十年前から劇的に発展し、若い世代がたくさん住む地域です。杜の里小学校も開校十六年目を迎えました。児童数減少に悩む他の小学校とは特色が異なります。子どもたちがホタルと戯れながら、大人がやさしくその姿を見守ることができ環境があります。

この美しい町を維持し、さらに豊かに発展させていくために、杜の里小学校ができることを考えていきます。よろしく願いいたします。

令和4年度 通常総会



- 日時 令和4年6月5日(日) 9時30分
- 場所 金沢市立杜の里児童館
- 出席者 74名(うち委任者49名)
- 審議事項
 - 議案第1号 令和3年度事業報告及び収支決算に関する件
 - 議案第2号 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)に関する件
 - 議案第3号 役員任期満了に伴う選任の件
 審議の結果、第1、2、3号が承認されました。

令和4年度事業の実施事項

事業名	事業方針	施策項目
調査・研究事業	事業活動の推進を図る委員会の充実及び地区計画に基づき区域内の建築確認申請に際し、緑化保全の事前審査を行います。また、人材の確保と事業活動の活性化のため、地域を主体に会員の拡大を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の開催 地区計画申請の事前審査 会員の勧奨 祭りギフト券の交付
啓発と普及を図る事業	街づくり活動などの情報について、年3回「ニュース(広報誌)」を発行し、会員、地域住民等へ発信し、啓発と普及を図ります。また、ホームページで街づくり活動等を団体等へ情報を発信し、当法人の情報公開の基盤の強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ニュース(広報誌)の発行 ホームページによる情報公開
地域間交流と交流連携推進事業	街づくりの基盤となるコミュニティづくりを推進するため、地域住民や大学生と協力・協働した「まちおこしイベント」の活動等を支援し、人々の交流と健康で賑わいと活気あふれる街づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 若松三大まつりの支援 小学校等のイベント支援 自主防災組織の支援 樹木の名札設置
環境保全・花いっぱい運動事業	大学門前街の自然環境の維持と住民の緑化意識を高めるため、地域住民と協働で「花いっぱい運動」事業を展開し、地域の緑化推進に努めます。また、地域美化運動推進事業として、自然環境を将来にわたり「ふるさと」の景観として残すため、里山の整備保全を行う団体等を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい運動の推進 セットバックの整備の推進 ホテルの育成活動の事業 幹線道路清掃活動の推進 卯辰山グリーンデイの参加
2. その他の事業		
事業名	事業方針	事業内容
まちづくり環境整備受託事業	住まいづくりを支援するため、私有地の除草作業等を受託します。	<ul style="list-style-type: none"> 有料受託事業
公共施設管理受託事業	緑地小公園の清掃・管理等を公共管理者から受託します。	

街の声

「NEWS No.40号(R4.4.1)等の意見感想から」

☆「郷土こぼれ話」で若松館の由来が書かれていました。私の亡母が加賀市の吸坂館屋の娘だったので、懐かしく拝読しました。蓮如上人に教えられたり、雨に濡れて芽が出た麦芽から館を作り、先人もいろいろ苦労したんですね。

☆クロスワードを考えられるのが大変ですね！いつも脳トレになっているので、届くと早速楽しんでます。40号はタテとヨコの見出しを逆にして考えたら、スムーズにできました。

☆杜の里の桜並木で毎年家族写真を撮っているのですが、今年も楽しみにしています。ステイホームが続く中、すっかりクロスワードパズルが好きになりました。タテ、ヨコの標記が逆だったような気がしました。

☆この町に生まれ育ちましたが、昔の事など知らないばかりで、大変興味深いです。わが町探訪シリーズ続けて下さい。

☆やと春になったなア...!!ドブさいをしていたら、初音が聞こえてきました。うれしい!!イオンの駐車所の森にウグイスが一羽いるんですね。ここ23年聞いてないの、ととてもうれしかったです。年をとると日向ボツがいろいろとDRにいわれ、お昼頃毎日天気がいいとマスクして、外にでるようにしています。お陰様でまだ花粉症の心配がしていません。

☆「若松館の由来」の話、とても興味深く読みました。今でも、若松やその近辺で作っておられる家庭やお店があったら知りたいですね。☆今回、ヨコのかき、タテのかきが逆ではないでしょうか？道沿いのプランター、次から次へ花が咲く季節になってきました。球根や苗の植付け、水やり、花がら摘みなど、日頃の御世話、ご苦労様です。

☆いつもありがとございます。赤や黄色のプランターのチューリップが仲良く咲いています。心が和みます。日々まちづくり活動をなさっている方々のお陰と感謝しています。今回のクロスワードパズルヨコ、タテのかき、頭の中がこんがりがりましたが、なんとか解くことが出来ました。

☆何てほほえましいひとコマなの。まちづくり活動の写真が目飛びこんで来たよ。NPOの人達と一緒に子供達が花植えをしているよ!!未来の杜の里を担う子供達よ、もっともっと関心を持って、花植えのお手伝いしよう。

☆「若松館」という言葉をはじめ知りませんでした。優しい甘味と、風味がありそうで、とても美味しそうですね。いつも知らないことを教えてもらえる「金沢杜の里NEWS」次回もたのしみしています。まちづくり活動も「苦労」まで。

☆縁あって杜の里小学校に勤務し1年「花いっぱい」の道路と行き届いた清掃に感じている毎日です。地域の皆さんの気持ちが咲いているのだと思います。ありがとございます。

わが町・探訪シリーズ22 「鈴見の豪族」と「トボケの大地主」

若松荘における集落成立の解明には、若松本泉寺時代(1488~1531)の「鈴見の与三左衛門」と「トボケの地主」と「大屋敷の長者」の職名を知る必要があると考えます。そこで田上郷によく似た歴史を持つ江沼郡の額田荘を参考にしました。京都の長岡京から額田郷の木簡(789年の貢進札)が出土し、額田荘であった平安後期は鳥羽天皇院領として、荘園の耕作農民たちが御服綿や八丈絹を年貢として納めていました。注目は、1127年(大治2)に「番頭制」が敷かれていたことにあります。

額田荘では有力名主層(荘園の耕地を保有し、年貢夫役などの負担を負う標準的農民)を中心に10人の「番頭」がおり、その中の大江氏は、12世紀の初めに加賀の国司として着任し、その後は額田荘の近辺に土着し、一族は郷司職などを受けていた。平安中期以降の荘園領主は荘園を幾つかの番に分け、夫役・雑公事(支配者が課した労役)を徴収する単位とし、その番の責任者が下級荘官の「番頭」だった。一つの荘園の番の数は夫役などを12カ月に割り振るよう、6の倍数が多く、有力名主は名田といわれる開墾・買得などで得た田地に取得者の名を付けたが、名田を持つ者は、番名に数詞もあるが地名・人名を付け、特権として畠や田地が与えられていた。番頭は名主ではない古老百姓も含まれており、多くの番頭と均等な区画を割り降れば、公平な協同体だったことが想像できます。なお、番頭は荘園領主や下級官人が任命していた。

1412年(応永19)の若松荘は公家の鳥丸家が領有していたが、1499年に百姓らの年貢不払いがあり、また、に所領を有していたが、これも実態を失っていた。若松本泉寺が焼失(1531年)した後の1540年の「大館常興日記」に、上田上郷(一向一揆で守護を倒した後、河北郡二番組が田上若松の治安と年貢徴収の任務にあっていた)に対し、この在所に限らず、いづれの在所でも年貢を調えたものは、番頭に取立てる旨の幕府のいづけが記されている。

一向一揆体制下(百姓ノ持持タル国)では、番頭制が門徒衆による組制になっていたことが分かります。1536年3月、河北郡の有力者として「鈴見与三左衛門」が歴史に登場し、これが「鈴見」の初見となっています。河北郡二番組のトップは鈴見与三左衛門だったが1537年に河北郡から謀反の訴えがあり「鈴見長門」と名を変え、成敗された1538年の名は「下田長門」でした。

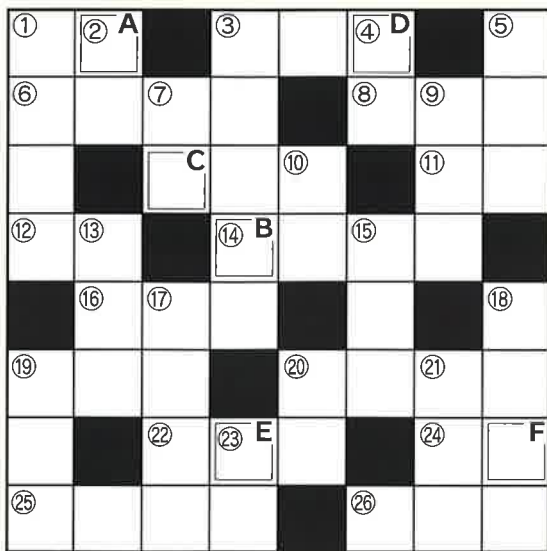
研究者は鈴見氏と下田氏は一族で、鈴見氏は豪族であろうと述べています。鈴見氏が番頭であれば、番名である人名が、後に村名になったという理由になり、また、かつて鈴見一族が郡家の役人で、屋敷に氏神を祀っていたのであれば、郡家神社と称された理由になります。

若松八幡神社を昔は「トボケの神様」と称していましたが、神社前方の分校跡辺りが「トボケ」でした。若松の伝承に、「小作が大地主に仕事がないかと頼みに行ったが、今日は何も無いといわれて泣きながら帰った。」という逸話があります。大地主は職向(のぼりむき)にいたと伝えられていますが、職向きの隣がトボケであり、ノボリケ(登家)がトボケに転訛した可能性があります。トボケの神様が大地主の氏神かは不明ですが、トボケは番頭である大地主が付けた番の名であることは確かです。

今回は「大屋敷の長者」と「牛坂の番堂」の予定です
郷土歴史研究家 亀田輝之



クロスワードパズル



答	A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---	---

応募方法

◎郵便はがきに解答と住所、氏名、感想等を記入し、7月31日までに、次の所へお送りください。
〒920-1165 金沢市若松町3-281
NPO金沢杜の里情報公開委員会係

地域の民俗芸能①

田上・若松地区には、昔から歌い・踊りつがれてきた、伝統的民俗芸能があります。しかしながら、町の近代化や担い手不足、各町会による盆踊りの減少などによって、大切な民俗芸能がすたれつつあります。田上公民館は、これら大切な芸能を次の世代に引き継いでいこうと地域の理解と協力を得「民謡教室」を開催し、田上はんた・田上りんりん・田上じょんからの歌と踊りを掘り起しながら、地域の皆さんに紹介できるまでになっており、また、田上町の盆踊りや田上新町の夏祭りや郷土の伝統的芸能を楽しんでいただき少しずつ広がっています。

そして、「若松じょんから」も、地域の有志からのビデオをお借りし、ビデオを元に歌の音符づくりと踊り・歌の再現をみることができ、上若松町の夏祭り、盆踊り大会で楽しんでいただきながら、地域に根付かせていきたいと思っています。そのためは、次代を引き継いでいく皆さんにも関心を寄せて頂き、自分達の地域の文化・歴史など誇りを持って欲しいと思っており、杜の里小学校で歌と踊りの実習も行い、運動会で踊ることができないかと、学校側と話し合いをしています。実現はできていません。

1、「じょんから」の起源

じょんからと言う歌は何から始まったのでしょうか。

昔インドの御釈迦さんの弟子に木蓮という尊者がいて、ある日、木蓮尊者が御釈迦さんに「私の母親は死んだ後、どこへ行ったのでしょうか」と尋ねました。すると御釈迦さんは、慈眼(じげん・慈しみをもった眼)の窓を開けて、地獄の中を見せてくれました。木蓮尊者はその窓の中を目をこらして見ますと、地獄の釜の中で多くの亡者たちと、いっしょに自分の母親が釜で煮られていました。

↓ タテのカギ

- ① 太陽系惑星の1つで我々が住んでいる天体
- ② 布等を縫う金属製の道具
- ③ 奈良市の華厳宗大本山の寺院
- ④ 膝からくるぶしまでの間の部分
- ⑤ 世の中や物事の移り変わり
- ⑦ 手足にある5本の物
- ⑨ 読書等する台
- ⑩ 首の付け根にかけての間の部分
- ⑬ 真心
- ⑮ 生後2年から7年程度の羊の肉
- ⑰ 運のいきおい
- ⑱ 酵母のこと
- ⑲ 英語で鳥類のことを言う
- ⑳ 実際にあった事柄
- ㉓ 末端の部分

→ ヨコのカギ

- ③ ウイスキーのブランド銘
- ⑥ 空気の流れ
- ⑧ 湿度の高い空気
- ⑪ 髪を整える時に使うもの
- ⑫ 家畜の名前
- ⑬ 日本料理の調理人
- ⑯ 味噌や醤油等の発酵調味料の原料
- ⑲ 陸上競技のリレーに使う物
- ⑳ 花壇に植えるスミレ科の草花
- ㉒ ある範囲の社会
- ㉔ 日本工業規格の略称
- ㉕ 自動車で遠出をすること
- ㉖ 野球等で球を打つ木製の棒

◎41号の正解者の中から抽選で15名様に粗品を8月上旬に発送します。

◎41号の解答は、令和4年11月発行の42号に掲載します。

◎40号の解答は「リョクカスイシン」でした。

(お詫び 40号の「タテのかぎ」と「ヨコのかぎ」の標記が逆でした。) お詫び申し上げます。

これを見た木蓮尊者は、御釈迦さんに「母親を地獄から救い出して極楽に連れてくるにはどうしたら良いのでしょうか」と尋ねたところ、御釈迦さんは、お前の母親だけを助けることはできないが、今の苦しみから救い出すことはできると言われ、お経を唱えるように教えてくれました。

木蓮尊者は、御釈迦さんから渡されたお経を唱えました。すると地獄の釜が粉々にこわれてしまい、釜の中にいた亡者たちは皆大喜びで外に出て、三日三晩の間、釜の廻りを大声をあげて踊りました。その廻り方が、左の方に廻ったので、左へ廻る踊りを「地獄踊り」と言うようになりました。

お盆に地獄の釜のフタが開くと言うことを聞いたことがありますか。これは木蓮尊者がお経を唱えた日が、今のお盆にあってることから、お盆にフタが開くと言われているのです。

また、釜の外に出た亡者たちは、みんな極楽に行ってしまう地獄はからっぽになってしまいました。この「地獄がから」と言うことがだんだん変わって行って、今の『じょんから』となったのです。

資料提供 前田上公民館長 関戸正彦

次回は、「若松じょんから」と「田上じょんから」を掲載予定です。

お知らせコーナー

7月～10月行事予定

◎環境保全・花いっぱい運動事業

- ・チューリップ球根植え 10月22日(土)、当事務所前 8:30から行います。皆さまのご参加をお待ちしています。

令和4年度がスタートし、3か月経過しました。新型コロナウイルスの感染状況は、収束しつつあり、通常総会を開催しました。しかし、各イベントの開催は未定となっております。当法人は今年も、豊かな自然環境と景観の保持及び緑と花の溢れる街づくりに取り組んでおります。皆さまの暖かいご意見、感想等が街づくり事業の励みになります。よろしくお祈りいたします。(編集後記)